

平城宮跡資料館 展示紹介「平城宮跡の歴史と保存」

資料館のガイダンスコーナーでは、平城宮跡の歴史や、発掘調査から復原整備への過程を年表と模型で紹介しています。年表は、都の前史からはじまり、奈良時代の主な出来事や、宮跡の研究と保存運動の現代にいたるまでの流れを取り上げています。模型は、平城京から長岡京への「遷都」、平城宮跡の「発掘」、正確な記録を後世に残す「実測」、遺跡公園として活用する「整備」の様子を立体的に示しています。

延暦3年(784)の長岡京への遷都により、宮跡は1,000年以上にわたり田畑となり、華やかな都の面影はなくなりました。しかし、江戸時代末期、古市奉行所(現・奈良市)に勤めた北浦定政により測量が

なされ、初めて平城宮・京が学問的に研究されました。近代以降、建築史家の関野貞せき の たちらにより研究は進み、地元の植木職人・棚田嘉十郎らの保存活動も契機となり、現在も宮跡の発掘、実測、整備が続いています。

年表や模型から、平城宮・京への先人たちの熱い思いが受け継がれ、平城宮跡がいまこの地に守り伝えられているということを読み取っていただけたら幸いです。

(企画調整部 中村 玲)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで、月曜休館)

ホームページ：<http://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)



編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2015年3月